

幼小接続期における 修辞学的音楽解釈を取り入れた歌唱研究

The song study that adopted rhetoric music interpretation in the connection period of
an infant and the elementary school lower grades

磯部 哲夫*

Tetsuo Isobe

It was with the vision that an expression image was considerably clear, and, in article “One consideration about the common matter of the course of study of the music-An element and the rhetoric association that from music which I announced in 2014 and 2015” the rhetoric music interpretation was able to inspect that it was the musical element which was important to the music expression of the student.

I inspect the vocalism that took in rhetoric music interpretation by figura how a leader should sing a song for an infant and the child of the elementary school lower grades for the students of a preschool teacher training school and the primary school teacher training course based on a past study in this report and consider the point of the song.

はじめに

筆者が2014年に発表した論文「学習指導要領音楽の〔共通事項〕についての一考察〈前編〉～音楽を形づくっている要素と修辞学の関連性～」では、対位法や和声は作曲理論であるが、音楽修辞はそれらに表現方法が伴っていることを検証した。2015年の同論文の後編においては、音楽修辞であるフィグーラを用い、中学校歌唱共通教材全7曲の修辞学的音楽解釈を考察した。考察の結果、修辞学的音楽解釈は、楽曲に対しての表現イメージがかなり明瞭なヴィジョンとして浮き上がり、児童・生徒の多様な感性に対応でき、個々の音楽表現に結び付けていくことのできる重要な音楽的要素となることが検証できた。

また、筆者の2016年に発表した論文「修辞学的音楽解釈を取り入れた小学校・中学校における歌唱授業の研究」においては、実際に小・中学校の音楽の歌唱領域の授業において、フィグーラを基にした歌唱指導を実践することによる、児童と生徒の歌唱表現の効果を検証した。アンケート調査において、小学校ではいつもの授業よりも良く歌えたと答えた割合は86.5%で、

* 音楽科

中学校では95%と高いポイントを示した。

本稿ではこれらの研究を基に、将来保育者や初等教育の指導者になる保育者養成課程や初等教育養成課程の学生を対象に、幼小接続期である、音程が取れるようになり表現の基盤となる幼児期の終わりから、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くことが求められる¹⁾児童期の初めの小学校低学年の児童に対し、指導者がどのように歌を歌えばよいか、どのように模範唱すればよいか、フィグーラによる修辭学的音楽解釈を取り入れた歌唱法を検証し、歌唱のポイントを考察する。

1. 研究方法

幼児教育の現場で歌われている楽曲と、小学校1、2年生の教科書に載っている楽曲の共通した楽曲より「シャボン玉」「たなばたさま」「とんぼのめがね」「おしょうがつ」「アイアイ」「さんぼ」を選び、小学校第1学年の歌唱共通教材の中から「ひらいたひらいた」、第2学年の歌唱共通教材の中から「かくれんぼ」を取り上げる。

以上の8つの楽曲にフィグーラによる楽曲アナリゼを行い、その解釈を基に歌唱ポイントを考察する。

2. 修辭学的音楽解釈

全8曲から出現したフィグーラと、それぞれのフィグーラの意味を示す²⁾。

<形象模写のフィグーラ>

- ・ hypotyposis (ヒポティポシス) = 言葉や詩的イメージを音で描いたり、音響の絵画的性質を強調。音の動きを用いて音の形象描写を行う。
- ・ circulatio (チルクラーツィオ) = 円弧または正弦波を描く音の動き。結論に達しない気持ち、思いを巡らす。合わせると円になる形は、完全性、永遠性を表す。
- ・ anabasis (アナバシス) = 上行音型。歌詞の意味に合わせたパッセージの上行。希望、明るさ、強さ、外向性、喜び、集中、ポジティブ。
- ・ catabasis (カタバシス) = 下行音型。歌詞の意味に合わせたパッセージの下行。絶望、苦しみ、弱さ、内向性、悲しみ、否定、死、ネガティブ。
- ・ chiasmus (キアスムス) = 交差する音の動き。内的な心の揺れ、心臓の鼓動。

<音程のフィグーラ>

- ・ amare (アマーレ) = 3度音程または4度音程が1度音程に集約。愛情。
- ・ exclamatio (エクスクラマツィオ) = 3度以上の上行または下行の跳躍進行。感嘆の感情を表す。6度は「ロマン6度」、ロマンティックな感情移入。憧れ、希望を表す。7度は焦がれる気持ち、満たされない気持ち。

<旋律反復のフィグーラ>

- ・ palillogia (パリロジア) = ある旋律を同じ声部で同じ高さでそのまま反復。同高反復。強調法。気持ちの高まり。
- ・ climax (クリマックス) = ある旋律を同じ声部で2度や3度高く反復。強調法。感情が次第に高まっていく様子。
- ・ synonymia (シノニア) = ある旋律を同じ声部で音高を変えて反復。類義反復。楽想に変化を加えて反復するもの。高揚感、生き生きと感じる。
- ・ epanados (エパナドス) = 同じ歌詞を何度も繰り返す。高揚感。

<休止によるフィグーラ>

- ・ suspiratio (ススピラツィオ) = 歌詞の内容を描写するためによく用いられるフィグーラで、幾つもの休止符で旋律を分断するもの。溜息、喘ぎ、驚き、恐れ、戸惑い、焦がれる思い。
- ・ pausa (パウサ) = 楽曲中の休止。休符の前は疑問を投げかけ、後はその疑問に答える。

<その他のフィグーラ>

- ・ kyclosis (キクロシス) = 同音の持続、タイ。不動、永遠、平和、静寂。
- ・ syncopatio (シンコパツィオ) = 切分音、シンコペーション。わだかまる気分を募らせる。不安感。

「シャボン玉」

【フィグーラによる楽曲アナリゼ】

シャボンだま とんだ やねまで とんだ やねまで とんで
 シャボンだま きえた とばずに きえた うまれてすぐに

こわれて きえた かぜかぜ ふくな シャボンだま とばそ
 こわれて きえた

【出現フィグーラ】

- ・ hypotyposis ・ synonymia ・ anabasis ・ amare ・ pausa ・ suspiratio
- ・ exclamatio ・ catabasis ・ circulatio

【歌唱ポイントの考察】

- ① 楽曲全体に音高の変化が見られ、ゆらゆらと揺れながら飛んでいるシャボン玉を表しており、シャボン玉を形象模写したhypotyposisである。シャボン玉が飛んでいる様子を思い浮かべながら歌う。
- ② 1～8小節目まで2小節単位で音高を変えて反復するsynonymiaが見られ、楽想に変化を加えて反復しており、シャボン玉を飛ばして遊んでいる高揚感や生き生きとした感じが表れている。
- ③ 1、2小節目にかけて上行音形であるanabasisで、シャボン玉が飛んだ喜びを表している。2小節目の「E-G-G」、6小節目の「D-G-G」、8小節目の「E-D-C」、10小節目の「C-A-G」、12小節目の「E-D-C」の音型は、3度音程または4度音程が1度音程に集約するamareで、2小節目の「とんだ」、6小節目の「とんで」、8小節目の「きえた」、10小節目の「ふくな」、12小節目の「とばそ」の歌詞に、それぞれ愛情を込めて歌いあげる。
- ④ 2、6小節目の最後に八分休符は、休符の前は疑問を投げかけ、後はその疑問に答えるpausaであるといえる。「シャボンだまとんだ」の後の八分休符は「どこにとんだの?」という疑問を投げかけ、「やねまでとんだ」と疑問に答えている。更に「やねまでとんで」の後の八分休符のpausaは、「やねまでとんで、どうなったの?」という問いかけに対し、「こわれてき

えた」と答えている。

- ⑤ 4、8、10、12小節の最後の八分休符はsuspirstioで、休符の前の歌詞に対して焦がれる思いを込めて表現する。
- ⑥ 8小節目は下行音型であるcatabasisが見られ、「きえた」の歌詞に対し、ちょっとした悲しみを込めて歌う。
- ⑦ 3小節目、8小節目から9小節目にかけて、3度以上の上行または下行の跳躍進行でexclamatioが見られ、喜びの感情を表わして歌う。
- ⑧ 11小節目は上行音形であるanabasisで、シャボン玉遊びをしている喜びを表している。
- ⑨ 最後の2小節は、円弧または正弦波を描く音の動きであるcirculatioが見られ、「シャボン玉とばそ」の歌詞に思いを巡らせて歌い終わる。

「たなばたさま」 日本音楽著作権協会(出)許諾第1810712-801号

【フィグーラによる楽曲アナリゼ】

【出現フィグーラ】

・ exclamatio ・ anabasis ・ suspirstio ・ amare ・ circulatio

【歌唱ポイントの考察】

- ① 1～2小節目、5～7小節目、9～10小節目は、3度以上の上行または下行の跳躍進行でexclamatioが見られ、喜びの感情を表している。
- ② 2～3小節目にかけて上行音形であるanabasisで、更なる喜びを表して歌う。
- ③ 4、8、12、16小節目の四分休符は、休止符で旋律を分断するsuspirstioが見られ、四分休符の前の歌詞に対し、焦がれる思いを込めて歌う。

④ 7～8小節目の「F-A-G」、11～12小節目の「G-F-D」、15～16小節目の「G-A-F」の音型は、3度音程または4度音程が1度音程に集約するamareが見られ、1番の歌詞では「ゆれる」、「きらきら」、「すなご」の歌詞に愛情を込めて歌う。

⑤ 13～16小節目にかけて、円弧または正弦波を描く音の動きであるcirculatioが見られ、最後の歌詞に「たなばた」の思いを巡らせながら歌う。また13、14小節目の下向きの円弧と14、15、16小節目の上向きの円弧は、上下合わせると円になる形をしており、永遠性が意味付けされる。「たなばた」が永遠に迎えられるように平和でありたいという願いを込めながら歌い終わる。

「とんぼのめがね」 日本音楽著作権協会(出) 許諾第1810712-801号

【フィグーラによる楽曲アナリゼ】

hypotyposis

1. とんぼのめがねはみずいろめがね
2. とんぼのめがねはびかびかめがね
3. とんぼのめがねはあかいろめがね

hypotyposis

あーおいおそらをとんだから
おてんとおさーまをみたから
ゆうやけぐーもとんだから

anabasis

hypotyposis

amare

kyclosis

suspiratio

とんだからー
みてたからー
とんだからー

【出現フィグーラ】

・ hypotyposis ・ pausa ・ suspiratio ・ anabasis ・ amare ・ kyclosis

【歌唱ポイントの考察】

① 楽曲全体は、とんぼが飛んでいる形象模写のフィグーラhypotyposisと見ることができる。とんぼの飛び方は、飛行していると思ったら突然ホバリングのように羽を動かしながら空中で静止したりするのが特徴である。1～4小節目の音の動き「C-E-D-C-D-E-G-A-G」は、とんぼがホバリングして空中を静止しながら飛んでいる様子を表している。5小節目から最後

の小節は、とんぼが高低をつけながら気持ちよく大空を飛んでいる様子を表している。

② 4小節目の八分休符は、休符の前は疑問を投げかけ、後はその疑問に答えるpausaである。例えば1番の歌詞を見てみると、「とんぼのめがねはみずいろめがね」の後に八分休符があり、この休符の前には「どうしてみずいろめがねなんだろう？」の問かけが隠れており、休符の後には「あおいおそらをとんだから」と答えている。2、3番の歌詞も同様である。

③ 8、12小節目の四分休符はsuspiratioで、「とんぼのように気持ちよく大空を飛びたいな」というように、休符の前の歌詞に対し焦がれる思いを込めて歌う。

④ 9～10小節目は上行音形であるanabasisで、喜びを表している。

⑤ 10～11小節目の「A-G-C」は、3度または4度音程が1度音程に集約するamareが見られ、最後の「だから」の歌詞に愛情を込めて歌う。

⑥ 最後の2小節は同音の持続のkyelosusで、とんぼの飛んでいる様子が安心して見られる平和な世界が永遠に続きますようにという、「平和」や「永遠」を思いながら歌い終わる。

「おしょうがつ」 日本音楽著作権協会(出)許諾第1810712-801号

【フィグーラによる楽曲アナリゼ】

The image shows a musical score for 'Oshougatsu' with handwritten annotations for rhetorical figures. The score is in 4/4 time and consists of 12 measures. The annotations are as follows:

- Measure 1:** Anabasis (upward movement).
- Measure 2:** Amare (love).
- Measure 3:** Anabasis (upward movement).
- Measure 4:** Amare (love).
- Measure 5:** Circulatio (circular movement).
- Measure 6:** Anabasis (upward movement).
- Measure 7:** Climax (peak).
- Measure 8:** Circulatio (circular movement).
- Measure 9:** Anabasis (upward movement).
- Measure 10:** Amare (love).
- Measure 11:** Anabasis (upward movement).
- Measure 12:** Suspiratio (sigh).

The lyrics are written below the notes, with some words underlined to indicate phrasing. The lyrics are:

1. もう いくつ ねると おしょうがつ
 2. もう いくつ ねると おしょうがつ
 おしょうがつには たこあげて こまをまわして あそびましよう
 おしょうがつには まりついて おいぼねついて あそびましよう
 は やくー こい こい おしょうがつ
 は やくー こい こい おしょうがつ

【出現フィグーラ】

・ synonymia ・ anabasis ・ amare ・ suspiratio ・ climax ・ circulatio

【歌唱ポイントの考察】

- ① 1～4小節目と9～12小節目は、音高を変えて反復するsynonymiaが見られ、楽想に変化を加えて反復しており、お正月を迎える高揚感を表している。
- ② 1～2小節目の「F-G-A-C」、3～4小節目の「F-G-A」、9～10小節目の「F-G-A-C」は上行音形であるanabasisで、「もういくつ寝るとお正月なんだろう、お正月、はやく来てほしいな」といったお正月を迎える喜びを表している。
- ③ 4、6、8、12小節目の最後の四分休符は、休止符で旋律を分断するsuspiratioが見られ、四分休符の前の歌詞に対し、焦がれる思いを込めて歌う。
- ④ 5～6小節目と7～8小節目には、2小節単位で2度や3度高く反復するclimaxが見られ、たくさんの遊びをして感情が次第に高まっていく様子を表している。また同様に2小節単位で円弧または正弦波を描く音の動きであるcirculatioが見られ、たくさんの遊びを歌っている歌詞に対し思いを巡らせながら歌う。
- ⑤ 2小節目の「A-C-A」、3～4小節目の「F-G-A」、6小節目の「F-G-A」、8小節目の「G-A-C」、11～12小節目の「A-G-F」の音型は、3度音程が1度音程に集約するamareが見られ、それぞれの歌詞に対し愛情を込めて歌う。

「アイアイ」 日本音楽著作権協会(出)許諾第1810712-801号

【フィグーラによる楽曲アナリゼ】

The image shows a handwritten musical analysis of the song "Ai Ai". It consists of four staves of music, each with a treble clef and a 4/4 time signature. The analysis includes various musical terms and their corresponding positions in the score:

- Staff 1 (Measures 1-4):** Labeled with "synonymia" and "chiasmus". It features "exclamatio" (measures 1-2), "exclamatio" (measures 3-4), and "suspiratio" (measure 4). Lyrics: "アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ)".
- Staff 2 (Measures 5-8):** Labeled with "synonymia" and "chiasmus". It features "exclamatio" (measures 5-6), "exclamatio" (measures 7-8), and "suspiratio" (measure 8). Lyrics: "アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ)".
- Staff 3 (Measures 9-12):** Labeled with "anabasis", "amare", and "suspiratio". It features "exclamatio" (measures 9-10), "pausa" (measure 11), and "suspiratio" (measure 12). Lyrics: "アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ)".
- Staff 4 (Measures 13-16):** Labeled with "synonymia" and "amare". It features "exclamatio" (measures 13-14), "exclamatio" (measures 15-16), and "suspiratio" (measure 16). Lyrics: "アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ)".

Additional terms like "synopatio" and "amare" are also noted above specific measures. The lyrics are written in Japanese and are partially obscured by the musical notation and analysis labels.

【出現フィグーラ】

- ・ exclamatio ・ pausa ・ syncopatio ・ chiasmus ・ amare ・ suspiratio
・ anabasis ・ synonymia

【歌唱ポイントの考察】

- ① 1小節目の「G-E」、2小節目の「F-D」、2～3小節目の「D-G」、5小節目の「G-E」、5～6小節目の「E-C」、6小節目の「C-A」、9～10小節目の「C-G」、13小節目の「G-E」、14小節目の「F-D」、14～15小節目の「D-G」、15～16小節目の「H-G-C」は3度以上の上行または下行の跳躍進行でexclamatioが見られ、これらの箇所では喜びの感情を表して歌う。
- ② 2、6、10、14小節目の最後の八分休符は、休符の前は疑問を投げかけ、後はその疑問に答えるpausaであり、「アイアイ、それは何？」の答えが休符の後に歌われている。
- ③ 3、7、11、15小節目では、シンコペーションのフィグーラであるsyncopatioが見られ、2、6、10、14小節目の最後の八分休符のpausaの答えに、ちょっとした驚きを意味づけている。
- ④ 3～4小節目と7～8小節目は、交差する音の動きのchiasmusが見られ、心臓の鼓動を意味し、ワクワクしながら歌う。
- ⑤ 3～4小節目の「C-E-G」、7～8小節目「A-H-C」、11～12小節目の「H-C-D」、15～16小節目の「H-G-C」の音型は、3度または4度音程が1度音程に集約するamareが見られ、それぞれの歌詞に対して愛情を込めて歌う。
- ⑥ 4、8、12小節目の最後の四分休符は、休止符で旋律を分断するsuspiratioが見られ、四分休符の前の歌詞に対し、焦がれる思いを込めて歌う。
- ⑦ 11～12小節目は上行音形であるanabasisが見られ、喜びや明るさを感じながら歌う。
- ⑧ 1～4小節目、5～8小節目、13～16小節目は、音高を変えて反復するsynonymiaが見られ、楽想に変化を加えて反復しており、高揚感を感じ生き生きと歌う。

「さんぽ」 日本音楽著作権協会(出) 許諾第1810712-801号

【フィグーラによる楽曲アナリーゼ】

The image shows a musical score for the song 'さんぽ' (Sampo) in 4/4 time. The score is annotated with various rhetorical figures (figurae) such as epanados, exclamatio, anabasis, suspiratio, amare, synonymia, catabasis, and palilogia. The lyrics are written in Japanese and are aligned with the musical notes. The score is divided into measures, with some measures containing multiple notes. The lyrics are: 1~3 あるこう、あるこう、わたしはげんき、あるくのだいすき、どんいこう、さかみちーとんねるーくさっぱら、みつばちーぶんぶんーはなばたけ、きつねもーたぬきもーでておいてー、いっぼんばしにーでこぼこじゃりみち、ひなたにとかけーへびはひとるとね、たんけんしようーはやしのおくまで、くものすくぐってーくだりみち、ばったがとんでーまがりみち、ともだちたくさ、うれしいな、ともだちたくさん、うれしいな。

【出現フィグーラ】

- ・ epanados ・ exclamatio ・ anabasis ・ suspiratio ・ amare ・ synonymia
- ・ catabasis ・ palilogia ・ kyclosis

【歌唱ポイントの考察】

- ① 1、2小節目は、同じ歌詞を繰り返しており epanadosが見られ、高揚感を感じて歌う。
- ② 1小節目の「あるこう」、3小節目の「わたしは」、5小節目の「くのだい」、7小節目の「どんいこ」、13小節目の「いっぼんばし」、17小節目の「のすくぐっ」、21、25小節目の「だちたくさ」は、それぞれ3度以上の上行または下行の跳躍進行で exclamatioが見られ、これらの

箇所では喜びの感情を表して歌う。

- ③ 1、3小節目、18小節目の4拍目から20小節にかけて、22小節目の4拍目から24小節にかけて、26小節目の4拍目から28小節にかけて、それぞれ上行音形であるanabasisが見られ、「あるこう」、「わたし」、「くだりみち」、「うれしいな」の歌詞に対して喜びを表して歌う。
- ④ 3、4、6、8、12、16、20、24小節目に見られる休符はsuspiratioで、歌詞に対し焦がれる思いを込めて歌う。
- ⑤ 3～4小節目の「H-A-G」、5～6小節目の「H-A-G」、7～8小節目の「D-E-C」、11～12小節目の「F-D-E」の音型は、3度または4度音程が1度音程に集約するamareが見られ、3～4小節目の「げんき」、5～6小節目の「だいすき」、7～8小節目の「いこう」、11～12小節目の「っぱら」の、それぞれの歌詞に対して愛情を込めて歌う。
- ⑥ 9～10小節目は音高を変えて反復するsynonymiaが見られ、高揚感を感じて歌う。
- ⑦ 15～16小節目は下行音型であるcatabasisが見られ、歌詞に対し、ちょっとした悲しみを込めて歌う。
- ⑧ 21～24小節目と25～29小節目は、同じ音型でそのまま反復しているpalillogiaが見られ、気持ちの高まりを表して歌う。
- ⑨ 28～29小節目は、同音の持続のフィグーラであるkyclosisが見られ、「友達がたくさんいるうれしさがいつまでも続く世界であってほしい」という、永遠性や平和に対する思いを込めながら、しっかりと音を伸ばし歌い終わる。

「ひらいた ひらいた」

【フィグーラによる楽曲アナリゼ】

1 ひらいた ひらいた なんのはながひらいた れんげのはながひらいた
 2 つぼんだ つぼんだ なんのはながつぼんだ れんげのはながつぼんだ

7 ひらいたとおもったら いつまにかつ — — ぼんだ
 つぼんだとおもったら いつまにかひ — — らいた

【出現フィグーラ】

・ synonymia ・ amare ・ pausa ・ exclamatio ・ catabasis ・ anabasis

【歌唱ポイントの考察】

- ① 1～2、3～4、5～6小節目は2小節単位で音高を変えて反復するsynonymiaが見られ、段々と高揚感を表して歌う。
- ② 2、4、6小節目の「A-G-E」の音型は、4度音程が1度音程に集約するamareが見られ、「ひらいた」の歌詞に対して愛情を込めて歌う。
- ③ 2、4、6小節目の最後の八分休符は、休符の前は疑問を投げかけ、後はその疑問に答えるpausaであり、「ひらいたひらいた」八分休符「なんのはながひらいた」八分休符「れんげのはながひらいた」八分休符「ひらいたとおもったらいつのまにかつぼんだ」と、八分休符を挟んで問いかけに対しての答えになっている。
- ④ 9小節目では、「H-D-H」の3度上行の跳躍進行でexclamatioが見られ、ここでは喜びの感情を表して歌う。
- ⑤ 10～11小節目では下行音型であるcatabasisが見られ、「つぼんだ」の歌詞に対し、ちょっとした悲しみを込めて歌うが、11～12小節目では上行音形であるanabasisとなり、希望、明るさや喜びが意味付けされ歌い終わる。

「かくれんぼ」 日本音楽著作権協会(出) 許諾第1810712-801号

【フィグーラによる楽曲アナリゼ】

かくれんぼ するものよ つといて
 じゃんけんぼんよ あいこでしょ
 もういいかい まあだよ もういいかい もういいよ

【出現フィグーラ】

・ synonymia ・ amare ・ pausa ・ palillogia

【歌唱ポイントの考察】

- ① 1～4小節目と5～8小節目は、4小節単位で音高を変えて反復するsynonymiaが見られ、楽想に変化を加えて反復しており、高揚感を感じ生き生きと歌う。

- ② 3～4小節目の「E-A-A」、7～8小節目の「G-E-D」、9～10、11～12、13～14、15～16小節目の「G-H-A」の音型は、3度または4度音程が1度音程に集約するamareが見られ、「よっといで」「あいこでしょ」「もういいかい」「まあだだよ」「もういいかい」「もういいよ」の、それぞれの歌詞に対して愛情を込めて歌う。
- ③ 10、14小節目の四分休符は、それぞれ休符を挟んで「もういいかい？」の質問に対する答えが「まあだだよ」、「もういいよ」になっており、pausaのフィグーラである。
- ④ 9～10と11～12小節目、13～14と15～16小節目は、同じ音型でそのまま反復しているpalilogiaが見られ、気持ちの高まりを表して歌う。

おわりに

幼小接続期の指導者における歌唱ポイントについて、8つの楽曲を取り上げフィグーラによる楽曲アナリゼを基に考察してきた。修辭学的音楽解釈をすることにより、それぞれの楽曲に対しての表現イメージがかなり明瞭なヴィジョンとして浮き上がってきたのではないかと。曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くことが求められる幼小接続期に、指導者が幼児、児童を前にして、どのように楽曲を歌えばよいか、どのように歌唱表現すればよいか、修辭学的音楽解釈による本研究で歌唱表現の根拠が明確にすることが検証できたのではないかと考える。

今後は、保育者養成課程や初等教育養成課程の学生、現役の保育者や小学校の低学年担当の指導者に対し、修辭学的楽曲解釈を周知し歌唱実践を行い、アンケートやインタビューを基にその効果を検証する必要がある。

<引用文献>

- 1) 文部科学省：小学校学習指導要領解説 音楽編、(株)教育芸術社、29-30頁、2017。
「第1節 第1学年及び第2学年の目標と内容」には、「2 内容 A表現」の「(1)歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」の中で「イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。」と記載されている。
- 2) 磯部哲夫：学習指導要領音楽の〔共通事項〕についての一考察〈後編〉～音楽を形づくっている要素と修辭学の関連性～、郡山女子大学紀要第51集、2-3頁、2015。

<参考文献>

- 1) 磯部哲夫：学習指導要領音楽の〔共通事項〕についての一考察〈前編〉～音楽を形づくっている要素と修辭学の関連性～、郡山女子大学紀要第50集、267-282頁、2014。
- 2) 磯部哲夫：学習指導要領音楽の〔共通事項〕についての一考察〈後編〉～音楽を形づくっている

- 要素と修辞学の関連性～、郡山女子大学紀要第51集、67-83頁、2015.
- 3) 磯部哲夫：修辞学的音楽解釈を取り入れた小学校・中学校における歌唱授業の研究、郡山女子大学紀要第51集、273-289頁、2016.
 - 4) 渡邊恵子：幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究〈報告書〉、国立教育政策研究所、2017.
 - 5) 文部科学省：小学校学習指導要領解説 音楽編、(株)教育芸術社、2017.
 - 6) 文部科学省：幼稚園教育要領〈平成29年告示〉、(株)フレーベル館、2017.
 - 7) 厚生労働省：保育所保育指針〈平成29年告示〉、(株)フレーベル館、2017.
 - 8) 全国大学音楽教育学会：明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌 唱歌童謡140年の歩み、音楽之友社、2013.
 - 9) 鈴木恵津子、富田英也：ポケットいっぱいのおうた 実践 子どもの歌 簡単に弾ける144、(株)教育芸術社、2011.
 - 10) 伊藤嘉子、鞍掛昭二、三瓶令子、吉野幸男：NEWうたってひこう すてきな保育者になるために、音楽之友社、2003.
 - 11) 小原光一ほか12名：小学生のおんがく1、(株)教育芸術社、2010.
 - 12) 小原光一ほか12名：小学生の音楽2、(株)教育芸術社、2010.
 - 13) 湯山昭ほか5名：あたらしいおんがく1、東京書籍(株)、2010.
 - 14) 湯山昭ほか5名：新しい音楽2、東京書籍(株)、2010.
 - 15) 三善晃ほか21名：小学音楽 おんがくのおくりもの1、教育出版(株)、2010.
 - 16) 三善晃ほか21名：小学音楽 音楽のおくりもの2、教育出版(株)、2010.
 - 17) 堀江英一：音楽修辞フィグーラ概念による小学校歌唱共通教材の表現法、富山国際大学子ども育成学部紀要第2巻、2011.
 - 18) ニコラウス・アーノンクール、樋口隆一・許光俊訳：古楽とは何か 一言語としての音楽、音楽之友社、1997.
 - 19) 服部幸三：フィグーレンレーレについて、音楽学 第7巻(Ⅱ)、11-31頁、1961.
 - 20) 有田正広：有田正広さんのフルート講座 管楽器奏者のための音楽修辞学のすすめ1～4、パイパーズ、288号 92-94頁、289号 92-94頁、290号 92-94頁、291号 90-92頁、2005.
 - 21) 磯山雅：バッハ=魂のエヴァンゲリスト、東京書籍、1985.
 - 22) Hans-Heinrich Unger : Die Beziehungen zwischen Musik und Rhetorik im 16.-18. Jahrhundert, GEORGOLMS VERLAG HIDESHEIM, 1969.